

# 記事テンプレート

村上友哉

2021 年 5 月 17 日

## 目次

1	独自定義のコマンド	1
2	独自定義の環境	1
2.1	定理環境 . . . . .	1
3	図	2
4	文献引用	2

## 1 独自定義のコマンド

$\mathbb{N}, \mathfrak{p}, \mathcal{A}, \text{Hom}(A, B), |x|$  などのコマンドを楽に入力できる. 定義したコマンド一覧は `mycommand.sty` で見られる.

## 2 独自定義の環境

### 2.1 定理環境

通常の定理環境は `thm` 環境を使って

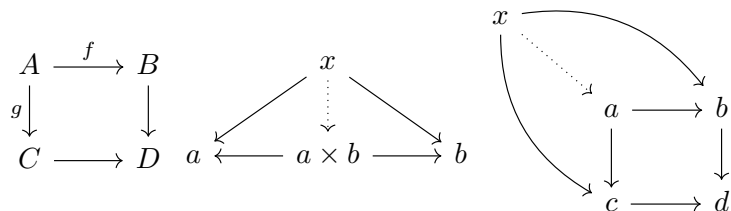
**定理 2.1** (見出し). 定理の内容

として「定理 2.1」で引用する. 番号にはハイパーリンクが付く. 定理番号の形式を変更したいときはプリアンプルから設定する.

**演習問題 1.** 演習問題だけは番号付けがデフォルトで定理番号とは別の通し番号になっている. 変更したいときはプリアンプルから設定する.

### 3 図

可換図式は TikZ-cd を使って



のように書く (参考にした URL) .

### 4 文献引用

文献の内容を bib ファイルに bibtex 形式で MathSciNet などからコピペした上で [AM06, 定理 1.1] などとして文献を引用する. 本当は cite コマンドの前に半角スペースではなくチルダを使うことで行頭への出力を禁止するが, mypackage.sty 内で読み込んだ cite パッケージの効果によりチルダを使わずとも行頭への出力を禁止できる.

### 謝辞

mycommand.sty で定義しているコマンドの一部は松坂俊輝さんに教えて頂いたものを使っています. また, このテンプレートはインターネット上に公開されている膨大な知見をもとに作成されています. ここに感謝いたします.

### 参考文献

[AM06] Michael F. Atiyah and Ian G. MacDonald. 可換代数入門. 共立出版, 2006. 新妻弘 (翻訳) .